



▲根白石中学校2年生25人が、全身を使って舞い踊りました

市政トピックス

伝統芸能を継承—中高生の交流会を行いました

根白石中学校では、総合的な学習の時間を活用し、江戸時代から泉区福岡地域に伝わる県指定無形民俗文化財「福岡の鹿踊・剣舞」の習得に取り組んでいます。鹿踊は五穀豊穣、剣舞は、悪霊退散・天下太平を祈願するもので、県内の複数の地域で伝承されています。伝統芸能への理解を深めるため、9月5日に「行山流水戸辺鹿子躍」の伝承に取り組む志津川高校の生徒と、南三陸町・志津川自然の家で交流会を行いました。しの笛のゆったりとした音色に合わせて、鹿の頭を付けてしなやかに踊る根白石中学校の演舞に対し、志津川高校は、激しく太鼓をたたきながら

市政トピックス

「想いやり」の気持ちで感染症対策と地域経済の再生を

市は、新型コロナウイルスの感染症対策と地域経済再生の両立を図るため、仙台商工会議所およびみやぎ仙台商工会と共同で「仙台 感染症対策・地域経済循環プロジェクト」を開始しました。キーワードは「想いやり」。相手に心を尽くすという気持ちを「想」の漢字で表現し、企業の経営を支えつつ、地域を挙げて継続的に感染症対策に取り組みます。

9月上旬から、啓発ポスターとステッカーを2万超の市内事業者に配布。お店には消毒や換気を、利用者にはマスクの着用などを促し、「迎え入れる側」と「迎えら



▲ポスター(左)、ステッカー(右)等は、仙台商工会議所ホームページ(https://www.sendaicci.or.jp/)からダウンロードできます

市政トピックス

応急手当を身近に—救急体験のイベントを開催

9月6日、12日の救急医療週間に合わせて、家庭内での事故やけがを予防するための予防救急や心肺蘇生法を体験できるイベント「いざみ救急ひろば」が9月6日にイオンタウン仙台泉大沢店で開催される。この日は、市民、行政等が一体となって、一人一人が互いに心を配り、優しさと活力に満ちた地域社会を目指します。

また、飲食・宿泊業界の団体がまとめた感染症対策に関するガイドラインの内容を解説したガイドブックも作成。基本的な注意事項をイラスト入りで分かりやすくまとめており、全ての業種で活用できる内容となっています。このほか、宴席の需要回復のためホテルの利用体験会の開催や、感染防止対策を行う飲食店のPR等を実施していきます。

市政トピックス

行財政改革の取り組みを進めています

「仙台市役所経営プラン」に基づく令和元年度の行財政改革の実績を取りまとめました。計画に掲げる98の項目による効果額は、令和元年度が約66億円で、計画当初からの累積効果額は約217億円となっています。

「仙台南地区の七郷地区を中心に、地域の景観とそこに暮らす人々の生活や日常の生活を記録した一冊です。27年前の発行ですが、明治生まれの方も多くご存命の時代で、今では失われた行事や生活習慣なども見られます。語り口を活かした本文を読んでいると、その人から実際にお話を伺っているかのような感覚になります。震災以前の暮らしに残されていた、地域の文化を実感をもって捉えることができます。

市税や国民健康保険料等の収納率の向上

民間活力の導入

情報システム最適化の推進

◎「仙台市役所経営プラン」の実績は、市役所本庁舎1階市政情報センター、宮城野区・若林区・太白区情報センター、市ホームページでご覧いただけます



▲心肺蘇生法を行う従業員(中央)と119番通報で容体を伝える従業員(右)

倒れたという想定で、従業員が119番通報とAEDを使用した心肺蘇生法を行い、救急隊に引き継ぐまでの訓練を実施。周囲に「離れてください!」と大声で注意を促しながら、AEDの電気ショックをかけるなど、従業員の皆さんは本番さながらの真剣な表情と俊敏な動きで取り組んでいました。そのほか、会場には家庭内でのけがの予防方法を学ぶことができ、コーナーを設置。訪れた家族連れは、救急隊からの説明にじっくりと耳を傾け、救急に対する理解が深まった1日となりました。

市政トピックス

「ハツ森号」発進! 新川地区で地域交通の試験運行開始

最寄りの駅やバス停が遠い、道路が狭くて路線バスが通れないなど、日常生活に必要な移動手段に

課題がある地域で、既存の公共交通を補完する交通手段である「地域交通」。市では、地域が主体となり、地域交通を導入する団体に、運行経費の一部補助や運行計画の策定支援等を行う「みんなで育てる地域交通乗り乗り事業」を実施しています。現在、宮城野区燕沢と太白区坪沼の2地区で、地域交通の導入に向けた試験運行などに取り組んでいます。



▲タクシー型で小回りがきく「ハツ森号」

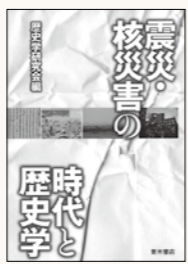
3.11 震災文庫を 読む

「ふるさと七郷 もうひとつの仙台」



七郷の今昔を記録する会/企画 タス・デザイン室 刊

東日本大震災は学問の世界にも大きな衝撃を与えました。特に歴史学では、過去の自然災害の記録から得られていた成果を現代社会の問題として十分に提起できていなかったことが明らかとなりました。また、核開発の歴史に現れていた原子力利用に伴う危険性も科学技術が示す明るい未来像の下で顧みられていかなかったようです。



歴史学研究会/編 青木書店 刊

過去を未来に活かす 仙台市歴史民俗資料館 学芸室長 畑井 洋樹

「震災・核災害の時代と歴史学」

本書は、震災直後に発行された「緊急特集 東日本大震災・原発事故と歴史学」と題した学会誌の特集をさらに発展させた一冊です。やや専門的な部分もありますが、現実の大災害を受けてきたのか、後世に災害をどう伝えるべきか、学問のあるべき一面をよく示しています。

●紹介した本は、市民図書館でご覧いただけます 問市民図書館 ☎261・1585